

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 10 月 17 日
事業所名	グループホーム「かがやき」ホームⅡ
事業所番号	2371400793
記入者名	職名 管理者 氏名 小林三七子
連絡先電話番号	052-625-6673

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの職員は、「かがやいて生きる」という言葉を大切にしながら、利用者が生きがいと役割をもつことができる生活の実現に取り組んでいる。また、ホームでは開設時より地域とのかかわりを大切にしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所で働く職員一人ひとりが事業所の理念を理解している。また、毎月のケース検討会議などで理念を確認し、その実践の徹底を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行しているかがやきニュースをごかぞくや地域の人たちに配布したり、日常的なつながりの中で、かがやきの理念や目標をおつえするように努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会への加入、地域行事への参加、「かがやきニュース」の配布や、地域の子ども達を招いてのひな祭りなどを開催して地域住民との交流を深めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入、地域行事への参加、「かがやきニュース」の配布や、地域の子ども達を招いてのひな祭りなどを開催して地域住民との交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎朝の散歩を通して、また、地域の子どもたちを招待する「ひな祭り」「子どもの日」などの行事を開催し、気軽にかがやきに立ち寄っていただけるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の結果を運営委員の皆さんや、ご家族、全職員に配布し、かがやきニュースでも紹介をしている。評価の結果を、それぞれの立場で話し合い、改善策を検討するなど、その共有化に努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会で出された意見や評価を、ケース検討会議などで報告し、情報の共有を図ると同時に、必要な改善策を協議してサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が、名古屋市の「認知症リーダー研修」の指導者として参加するなど、グループホーム全体のサービス向上に貢献している。併せて、その経験をかがやきの運営に活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現に、権利擁護事業や成年後見制度を利用されている利用者様の具体的な事例を通して、職員が学習を積み重ね、必要な人にはこれらの制度を紹介すべく準備を進めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や、職員が「虐待防止の研修会」に参加し、ケース検討会議等で研修の報告を行い、虐待防止に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約を結ぶ前に事前に契約書をお渡しし、契約書全文を読み上げ、質問や疑問にお答えしている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	毎週必ず開催される「献立会議」等において、利用者様のご意見をお伺いしている。また、必要に応じて運営委員会にも参加していただいている。出されたご意見は、ケース検討会議等に反映させ、運営に反映できるようにしている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、ホームの予定や出来事等を記載した「かがやきニュース」を発送し、家族に情報提供をしている。家族旅行や誕生会への参加の呼びかけ。また衣替え・オムツなど日用品の持込の機会を活用して、家族と職員の交流・懇談を多く持つようにしている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営委員会に家族会の代表が参加している。家族からのご意見は、特にケース検討会議等に反映させ、運営に活かしている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	管理会議、フロアー会議、フロアー打ち合わせ、ケース検討会議を毎月定期的で開催して、運営に反映させている。また、研修の位置づけも持たせて、節目ごとに、職員との個別面接の機会を作り、運営に反映させている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	管理者、主任、フロアー責任者を配置し、利用者やご家族の要望に柔軟に対応できる体制を作るように努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、利用者の皆さんへの移動職員からの挨拶とご家族には、月1回のお便りで確実にほうこくするシステムを確立して実行しています。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業時研修の一環として、他のグループホームへの実習を実施している。また、段階に応じ県・市のGH協議会の研修会に参加し、研修報告を義務化しています。講師を招いての研修や読書会など職員育成の努力を積み重ねています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は「県GH協会の調査・研究委員」「名古屋市の認知症リーダー会（指導者会）」に参加して他の事業者との交流を大切にし、サービスの向上の取り組み積極的に行なっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ケース検討会議等で「介護ストレス」はあるものとして学習会を行ったり、職員との個別面接などを実施したりして、ストレスの軽減に努力をしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人学習を基礎としながら、会議等を通して絶えずケアの問題提起をして向上心を持ち合えるように努力している。また、介護福祉士などの資格試験に挑戦を呼び抱えたりして、職員のスキルUPの応援に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個別対応を基本として、傾聴により困っていること、悩んでいる事などへの出来る限りの改善をし、受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前から、担当ケアマネさんとの連携を密にしながら、ご家族の不安や心配ごとを受け止める努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前から、担当ケアマネさんとの連携を密にしながら、ご家族の不安や心配ごとを受け止め、必要な支援を、担当ケアマネさん、ご本人やご家族と共に考え、最善の方向を見出せるように努力している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて「体験宿泊」をしていただき、ご本人が安心と納得のうえ入居していただいています。また、馴染みの家具や調度品を持ち込んでいただき、少しずつ他の入居者の皆さんや職員と馴染んでいただけるように努力しています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の大先輩である入居者の皆さんに、日常の料理、洗濯、掃除などの生活の場面で教えていただくという姿勢でケアに取り組んでいます。そうした基本姿勢を基にして、喜怒哀楽を共にしながら協働で生活を作り出すという関係、考え方を大切にしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族を共に入居者の皆様の「生きがいのある生活」をつくりあげるパートナーとして、ご家族が来訪された時や、電話等で報告や相談をして、入居者様を中心にして喜怒哀楽を共に築きあげる関係をつくる努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会や家族旅行などに参加を呼びかけ、また、いつでも気軽に訪問できる雰囲気作りに努め、ご本人とご家族が疎遠にならない関係作りに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までご本人が大切にしてきた人や場所等を把握して、意識的に買物に出かけるなど、その関係がなくならないように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の皆様が互いに尊重しあい支えあえるように、職員が一人ひとりの個性を大切にしながらサポートできるように努めている。併せて、喫茶、買物、「午後の取組み」など趣味の活動をとおして入居者様の関わり合いを増やす努力をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されたご家族にボランティアとしてホームにきていただいたり、ホームの行事に参加を呼びかけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から入居様の気持ちや要望等をお聞きし、介護計画やモニタリングに反映し、できる限り希望に添うように努力している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より多くの情報を得るように、日常的に努力して、アセスメント・介護計画に反映するように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、ご本人に確認、要望もお聞きしながらお一人ひとりにあった生活を支援するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護のあり方についてのご本人の希望や家族の要望を取り入れながら介護の原案を作成し、最終的には家族・本人・職員が参加する会議で確定している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の進行状況、効果を常に把握しながら、一定期間ごとの見直しや状況変化に対応した見直し努めている。職員が記録する情報や本人の希望、家族の要望なども取り入れて、毎月全職員が参加するケース検討会議で現状に見合った介護計画の見直しを行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別ファイルに記入し、職員は交代時に必ず引き継ぎ情報を共有している。その中で、具体的に問題を把握し介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況や要望に応じて柔軟に対応している。医療面においては、有松診療所と連絡を取り合いながら入居様お一人ひとりにあった支援を行なうよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元緑区社会福祉協議会に加盟している。地域の子ども達を対象に「雛まつり」などの行事を取組んでいる。また、中学校生徒の訪問ボランティアを受け入れたりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネ事務所に「かがやきニュース」を毎月配布するなどしてホームの紹介を行なっている。今後、他のサービスを利用するなどの支援にとりくんでいきたいと考えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域の包括支援センターやケアマネ事務所に「かがやきニュース」を毎月お届けするなどしてホームの紹介を行なっている。今後、他のサービスを利用するなどの支援にとりくんでいきたいと考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医療機関として有松診療所の定期的に往診や看護師の指導を受けている。また、本人やご家族が希望する医療を受けられるよう支援している。		
44	へ 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	大府の共和病院等専門医への受診、又、相談が出来るように支援している。また、ホームのかかりつけ医による定期的な受診、往診の体制がある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームのかかりつけ医療機関である有松診療所の看護師による週1回の訪問指導（バイタルチェックの点検等）を受け、日常的に健康管理や医療活用の支援を行なっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に病院の医師や看護師と日常的に会話をすすめ、また、カンファレンス等に積極的に参加し、早期退院ができるように取組み準備体制を作り上げるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人、ご家族を始め医師、看護師などの医療機関とホーム職員が何度も話し合い、3者が共に「重度化や終末期」に向けた方針を共有するように努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	開所から5年の経験の中で、「重度化や終末期」にむけた取り組みを、ご家族や医師、看護師とホームの職員が話し合い、学習を積み重ねるなかで、安心して最後が迎えられるように努めてきている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	アセスメントやケアプランなど支援状況など引継ぎのために必要な情勢をこまめに報告し、少しでもダメージを軽減するように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの思いに答えるようにプライバシーに配慮したケアを行なうように努めている。書類等はイニシャルで記入している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が、一方的に決めてしまうのではなく、入居者の皆さんが選べる工夫をするなど、本人のご希望を優先するように努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせ、全体で強制するのではなく、その日のペースや体調、気分に合わせて配慮しながら生活を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みや希望にあった身だしなみ、お洒落ができるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の皆さんが参加され、毎週1回開催される「献立会議」で決めている。準備・食事づくり・片付けを職員と共にこなせるように努めている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	まわりの方とのバランスを考えながら、一人ひとりの嗜好を把握し、日常的に生活全般を楽しめるように支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	かかりつけ医や看護師の指導もうけながら、定期的なトイレ誘導などを行なっている。また、一人ひとりの排泄パターンや習慣を考え支援している。本人にとってより気持ちの良い排泄ができるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めず毎日入浴できる環境を作っている。本人の希望により清拭やシャワー等への対応など柔軟に取組んでいる。	○印 (取組んでい きたい項目)	時間制限や順番等はないが、より、ゆったりのんびり入浴していただけるように、入浴の時間の幅などがもてるように工夫をしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を充実させる取り組みと併せて、一人ひとりの生活リズムに合わせて、夜間安心して休めるように支援している。また、各部屋の空調環境も整えている。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、掃除、洗濯など、できうこと、やりたいことへ参加し、今までの生活歴や希望などを把握し、一人ひとりに合わせた役割を支援するよう努めている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に食材等の買物にでかけ、入居者の皆さんの状況に合わせて、本人の希望の品物や喫茶店代を支払う事によって社会性の維持ができるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など日常的に外にでかけ、体力維持や楽しみなどの気分転換を図れるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力を得て、年1回家族旅行を実施している。また、職員体制をとって、個人の好みや要望に応じてコンサートや地域の催しものに参加する機会を設けている。	○	更に一層、一人ひとりの状況に合わせてと遠出の外出ができるように努めたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、ご家族や友人からの電話や手紙のやりとりを支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間や曜日を定めず、いつでも気軽に来訪していただけるように努めている。その際は、居室やフロアなどで、くつろいで談話できるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に参加したり、ケース検討会議等で学習会をもち、拘束しないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないように職員全員で見守るように心がけている。外へ出られる入居者様には、さりげなく寄り添い散歩やドライブなど気分転換を図るようにしている。また、「なぜ、鍵をかけないのか」など、その意義・意味について繰り返し職員間で話し合っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、利用者様のそばにいるように心がけ、常に所在をさりげなく確認し、安全・安心の生活を送れるようにしている。夜間は2時間おきに巡回し安全にすごせるように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要なものは、できる限り手の届かない所、目につかない所におくように努めている。包丁など必要に応じて使用する時には、必ず職員が付き添い安全確保に努力している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットや気付き用紙を活用し、職員間で事故防止の情報を共有している。また、会議等でも取り上げ繰り返し情報を提供するように努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員に、年1回の「救急救命講座」への参加を義務化し、急変時のマニュアルを職員室に掲示して、急変や事故発生に対応できるように努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施している。運営委員会の助言もいただきながら、地域との交流を深め、災害時に協力が得られるように努力している。	○	地域の皆様に災害時の協力を得られるように、更に一層地域の皆様との交流の機会を作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	ご家族の協力を得て、年1回家族旅行を実施している。また、職員体制をとって、個人の好みや要望に応じてコンサートや地域の催しものに参加する機会を設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとり起こりえるリスクについては、ご家族と話し合いながら、どのような支援が必要か、介護計画に反映し支援している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタルチェックを毎日行い、日々の変化は記録につけ職員で、情報を共有すると共に医療機関との連絡を密にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動にも心がけ、排泄記録をとって排泄パターンの把握に努めるなど、一人ひとりに合った働きかけができるよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがい、朝食と夕食後の口腔ケアを行なうと共に、口腔ケアマニュアルを個別に作り、取組んでいる。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食記録し、水分補給にも注意してケアを進めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種は全員の入居者の皆様をお願いしている。感染症マニュアルを職員室に置きいつでも見られるようにしている。ミニタオルを毎日洗濯し、漂白をしたり、感染症の新聞記事をトイレに貼り、注意を喚起しています。	○	入居者の皆さんが参加する「献立会議」等で定期的、日常的に話し合い、感染症の意識を高め、手洗い、うがい等を具体的に更に一層進めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器等は乾燥を行い、まな板、フキンは塩素消毒を行なっている。食材については、品質、賞味期限に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や小物、「絞りの時間」に作った絞りのタペストリーなどを玄関にかけ、気軽な、家庭的な雰囲気を出すように努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や書道などの入居者様の作品を展示し落ち着いて過ごせるようにしている。又、空気の入替えをこまめに行なうように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置やテーブルの位置に配慮して、個別に過ごせる空間を作るよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンス、ベッドなど本人が長く使っていた物をそのまま持ち込んで貰うようにしている。また、ホームで作成したご本人の作品を居室に飾ったりして、居心地よく暮らせるように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉はこまめに行い、入居者の皆様に確認をとりながら空調の活用も図っている。なお、冬季は床暖房も活用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで必要な場所には手すりをつけている。ご本人やご家族のご意見もいただきながら、自立した安全な生活環境で生活していただけるように努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に名札やのれんをつけ、トイレも大きく表示して分かりやすいようにしている。また、声かけや説明のしかたを職員で統一して行なえるように日頃から努力している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭やベランダにイスを置いて、自由に楽しんでいただいている。併せて、家庭菜園としても入居者の皆様の楽しみの一つとなっている。	○	更に一層、雑草の手入れやベンチ（イス）の配置に工夫し、季節感のあふれる庭やベランダにしていきたいと思います。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生きがいと役割を持った昼間の活動の充実、夜の安眠を保障する。昼夜の逆転のない、メリハリのある生活は、「かがやき」のある生活を作り出す。・・・ががやきの目標であり、理念です。多くの皆さんの努力により、合唱・書道・あみ物・しぼり・国語（朗読）を毎月1回開催し、半年に1回程度の割合で、ハンドベル・和ダイコ・手品・落語などにとりこんでいただいています。生きがい（趣味の生活）や役割をもった普通のあたり前の生活の実現をめざしてとりこんでいます。